経験と知見を広げる大切さ

益田健瑚

スイスでの姉妹都市交流事業を通して、私が学び、感動したことは２つあります。

１つ目は、ホストファミリーとの交流です。今回の姉妹都市交流事業で、私は初めて海外に行きました。それだけでは無く、ホームステイという貴重な機会も体験しました。外国に行くと、自ら話しかけ、交流することで、現地の人と関わりあえると考えていたのですが、今回はホームステイという、交流を持つ機会を得ることができました。そんな体験を通して、人とかかわるうえで、自分の気持ちをしっかり伝えることと、自分から話していくことが大切だと思いました。自分の気持ちをよく聞かれることが多く、どんなことを考えているのか、どう思っているのか、周りの人からはわからないので、しっかりと伝えることが大切だとわかりました。また、自分から話しかけていくことで、友好関係を築けるし、話さなきゃ相手のことはわかりません。ホストファミリーと一番初めに会ったとき、それを一番実感しました。これらの経験を通して、外国や見知らぬ場所に行くときには交流を積極的に行い、自分の気持ちをはっきりと伝えたいと思いました。

２つ目は、ハイキングです。私は「スイスといえば自然」と思っていて、その自然を一番に感じられたのが、ハイキングでした。ツェルマットの有名な山、「マッターホルン」を中心に、夏でも山に残っている「万年雪」、「永久凍土」や氷河が溶けてできた「湖」、所々に咲いている「野花」や、雨水などで削れていき木のような模様を描いている「岩肌」など、ハイキングをしただけでスイスの自然を楽しむことができました。そこをホストファミリーや仲間と一緒に話しながら歩き、日本では味わったことのない自然を楽しむことができました。そこから、世界は自分が想像できないぐらい広いとわかりました。だから他の国にも赴き、その国の人とかかわりながら自然を楽しみ、知見を広げたいと思いました。

このほかにも、今回の交流事業を通して、様々なことを得ることができました。今回培った力を今後の人生に活かして、よりよくしていきたいです。